

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770100560		
法人名	医療法人 陽心会		
事業所名	グループ ホーム たかまーみの家		
所在地	沖縄県那覇市字大道94番3号 4階		
自己評価作成日	平成29年 9月22日	評価結果市町村受理日	平成30年 1月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の健康管理は、訪問診療・訪問看護により定期的実施しており、異常があれば医師や看護師との連携で対応しています。又、入居者・入居者家族・職員を含め、大家族で生活しているという考え方の元で、個人の能力を生活に生かし、「自分で出来る事」を減らさないように支援していくよう努めています。又、当ホームでは、毎月第二火曜日の午前中、専門スタッフによるアートセラピーを実施しています。これは、入居者様が創作していく喜びを味わっていただき脳を活性化し認知症予防・治療をしていくことがねらいです。那覇市との関りでは、傾聴ボランティア制度を活用している方が3名おり又、地域の方々とは、1階の地域交流室にて毎週木曜日に琉舞サークルがあり見学に向いたり敬老会に参加してもらったりしながら交流を深めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/47/index.php?action_kouhou_detail2012_022kani=true&iigvocd=4770100560-00&pred=022
----------	---

平成28年5月に現在の法人関連事業所併設の4階建ての4階に移転している。移転時に地域住民30件程に、リーフレットを配りながら挨拶まわりを行い、理容室や近隣住宅に出かけたりと日常的に交流している。地域の行事等は、自治会長から情報を得て、忘年会等に参加している。1階は地域交流室で、近隣住民が管理がてら週2回程来所したり、定期的に地域の方がサークル活動しており、階下に出かけ見学等で交流している。理念は、平成27年8月に見直され、「たかまーみのいえ」に合わせて、分かりやすい表現を意識し、職員全員で検討し作成している。利用者の能力を引き出し、楽しく過ごせる工夫をするともに、事業所の行事に地域の方も参加してもらい、利用者と一緒に地域のイベントに参加する等、理念に沿った実践を行っている。行政からボランティアの紹介があり、現在、2名の方がそれぞれ曜日を変えて傾聴ボランティアとして関わっていることで、事業所内も活性化し利用者の表情が明るく変化する等、地域の方との交流や行政との連携がなされている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成29年10月30日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在、理念の読み上げは、入居者の方が読んでいただいて、後から職員及び入居者全員が一緒に唱和をしています。	理念の共有と実践については、これまでの理念を見直し、「たかまーみのいえ」に合わせて、分かりやすい表現を意識し、職員全員で考え作成している。日々の支援においては、利用者が能力を引き出し、楽しく過ごせる工夫をするとともに、事業所の行事に地域の方も参加してもらい、利用者と一緒に地域のイベントに参加する等、理念に沿った実践を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で納涼祭・大石公園ゆり祭りなど行事を主催したり、地域の敬老会等、又、1階地域交流室にて琉球舞踊サークルの見学に入居者・職員が参加したり地域の方々との交流をしています。	事業所と地域とのつきあいについては、平成28年5月に現在の場所、4階建ての4階に移転している。1階は地域交流室で、近隣住民が管理がてら週2回程来所したり、定期的に地域の方がサークル活動しており、見学等で交流している。移転時に地域住民30件程にチラシを配りながら挨拶まわりを行い、向かいの理容室や近隣住宅に出かけたりと日常的に交流している。地域の行事等については、自治会長から情報を得て、忘年会等に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に2回実習の場として、沖縄県立看護大学の実習生を受け入れ、認知症に関しての事例検討会を行っています。地域の方々には、店舗、個人住宅等にチラシ配布しながら認知症対応型のグループホームに関して説明を行っています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催しています。利用者の状況報告、行事報告、ヒヤリハットや事故報告等をし意見交換しています。今回は、毎年沖縄県立看護大学の実習と6月度重なり、担当の先生と実習生2名参加していただきました。	運営推進会議を活かした取り組みについては、2か月に1回開催にされ、利用者や家族、行政、地域代表(自治会長、民生委員)が参加し、今年6月から知見者として同業者が参加している。会議では、利用者状況や行事、事故等を報告している。外部評価報告書や運営推進会議議事録は食堂フロアに設置し公表されている。議事録は、会議日の追加が望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	那覇市担当者とは、認定手続きや待機者情報の確認等を行っています。市による集団指導やボランティアポイント制度事業の活用時に、行政から助言がえられ協力関係を築いています。	市町村との連携については、運営推進会議での情報交換のほか、行政窓口での申請手続きや待機者状況、研修等の情報を得る等、協力関係が築かれている。行政からボランティアの紹介があり、現在、2名の方がそれぞれ曜日を変えて傾聴ボランティアとして関わっていることで、利用者の表情が明るくなっている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束につながる行為の勉強会を定期的に当ホームで実施し理解を深めています。実際に職員同志でシーツで紐を作りベッド上・車イスで拘束したり、される側の経験をしました。	身体拘束をしないケアの実践については、継続的に勉強会を実施し、事故等も少なくなっており、拘束のない支援を行っている。居室はセンサーを使用せず、ベッドも柵のない家庭用ベッドで、4階の事業所のエレベーターも自由に出入り可能となっている。向かいの理容室にも利用者状況を伝え、利用者が一人で歩いている場合等連絡がもらえるようお願いしている。リスクについては家族にも説明している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	拘束につながる行為の理解を深めると共に、定期的に当ホーム勉強会を開催している。	虐待の防止の徹底については、虐待と身体拘束に関する勉強会を年2回実施している。日々の支援で常に意識してもらうため、虐待防止に関する内容をトイレやパソコンの側に掲示している。職員の言葉かけ等、気になる場合は、その都度声かけすることで、利用者への接し方や話し方に変化がみられるようになっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成28年度沖縄県権利擁護推進員養成研修に参加して、その資料を元に勉強会を実施した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、重要事項説明書・契約書を読み説明を行っています。疑問点があれば質問を受け理解して頂けるよう説明しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情相談受付担当者を掲示し、意見箱を設けています。苦情があった場合には対応策を示し玄関先に掲示していくようにします。	運営に関する利用者、家族等の意見の反映については、日頃から利用者や家族の意向を聴くようにし、それをもとにした支援に努めている。「海に行きたい・刺身食べたい」等の意向でメニューに追加し提供している。家族から「以前のように外出させてほしい」の意見があり、車使用の調整が難しく外出が少ない状況の中、ドライブや近隣公園に出かけられるよう努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングで積極的に意見を求めると共に、日頃から連絡ノートや口頭での報告・連絡・相談を密にするよう努めている。	運営に関する職員意見の反映については、随時に口頭で聞くとともに、月初めに全職員参加で16時からミーティングを行い、職員の意見を聞く機会としている。職員専用室の確保が難しい状況の中、休憩室設置の要望を受け、サマーベッドの購入による対応や地域交流室、空き居室の使用等で対応している。定年後の再雇用等、職員の意向を反映している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ、職員と面談を行っています。個々のスタッフの状況把握、勤務態度、就労条件の改善に努めています。	就業環境の整備については、管理者はチームワークを大切しており、職員はお互い様の心で、勤務調整もスムーズに行われている。就業規則も整備され、新人職員の夜勤業務も不安なく実施できるよう配慮している。介護福祉士等の資格者は正規雇用への推薦も可能であり、介護職員処遇改善加算等や年2回の健康診断の実施等、労働条件を整えている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人研修に参加しています。参加者には、学びの振り返りを提出させています。又、当ホームでは、毎月職員の輪番制で勉強会(医療、福祉に関して)を開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会、那覇市グループホーム連絡会に参加し、そこで得た他事業所の取り組みを参考にし情報を共有しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談では入居者本人または家族からの要望や困っていること、不安なことやこれまでの生活状況を聞き取り、安心して生活できるよう各入居者に合わせた関係作りに取り込んでいます。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約前、契約時に家族と話し合う時間を作り要望・希望・相談等を聞くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面談やサービス担当者会議で本人と家族が今、必要としているサービスを見極めて検討事項や課題として他サービスも含めて対応もできることを確認しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の嗜好を考え季節に合わせたメニュー作りを行い、野菜下処理・食器方付け・下膳等出来る事はして頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要な時に家族に連絡を取り合い日々の状態報告や介護記録の閲覧、相談を受け、信頼関係を築きながら共に本人を支えています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	清明祭、お盆、正月などその他の行事に自宅への外出又は、ホテルでの外食をしたり、当ホームへ面会に来ていただいていたたり、馴染の関係が途切れないように支援しています。	馴染みの人や場との関係継続の支援については、利用者は事業所近隣地域から入居されており、旧盆や正月等には家族が迎え自宅に行ったり、孫の結婚式等で外出している。利用者の親友の家族が訪問してくれたり、クリスチャンである知人の来訪や娘と教会に出かける等、関係が途切れない支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	余暇時間や食事、おやつの時間など、入居者同士で楽しく交流できるように職員も一緒になって会話を楽しんだり、席配置を移動したり、必要に応じて仲裁・見守りをするように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、他施設を紹介する等し、退所後も相談があれば対応する事を話しています。又、近隣の病院に入院されている方には、折をみてお見舞いに出かける。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向は入居前の面談で本人や家族から聞き取り、入居後は日常の中で会話の内容や行動から希望や意向の把握に努め家族からも面会時や電話にて情報や意向を確認している。	思いや意向の把握については、家族等から情報を得たり、入居に至る際のアセスメント等で確認し、日常的には日々の会話の中で把握に努めている。「海に行きたい、魚取りたい」等の意向にドライブ等に対応したり、玄関の花壇や向かいの住宅の草花を観賞する等で支援している。声かけに「イヤ」というぐさや発語等がある場合は、本人の意向と理解している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴・時代背景など家族から聞き、日々に関わりの中で表情・しぐさ・言動からの意向の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや本人の有する能力を見極め、日々の心身状態を職員間で申し送りを通して情報共有を図り現状把握に努めています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族より行こう意向を聞き、サービス担当者会議やミーティングで出た内容や意見を反映して現状に即した介護計画を作成、各利用者でファイルし、職員全員が共有できるようにしています。	チームでつくる介護計画とモニタリングについては、介護計画の長期目標1年、短期目標6か月とし、基本的には6か月毎に介護計画を見直し作成され、必要があれば随時に行うようにしている。モニタリングは3か月毎に担当職員が中心となり聞き取りしている。担当者会議は更新時に行われ、家族の来所時に合わせて行うようにしている。個別計画や計画に沿った記録も見られた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別記録を用い、情報共有と課題を発見しケアの実践につなげています。又、日々の様子や気づきや目配り等を全職員で情報を共有して介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との連帯を密にしながら、急な状態変化に伴う受診や急変した場合には柔軟に対応してサービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や近隣住民、運営推進会議等で地域資源について情報を把握し、入居者に合わせた地域資源が活用できるように支援しています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による月4回の訪問診療、状態変化時に医療連携を図り、必要に応じて外来受診や他科受診、その際の送迎や家族対応が難しい場合の付添いの支援をしています。	かかりつけ医の受診支援については、本人と家族の了解のもと、ほぼ全員が法人の主治医をかかりつけ医とし、訪問診療を受けている。家族は来所時に診察内容や投薬の変更等を職員から直接聞いている。他科受診は家族対応で、結果は職員に口頭で報告されている。家族対応の難しい利用者については職員が付添い、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中、常にナースに情報や気づき等を相談し、すぐに対応できるように受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、病棟ナースや相談員と入院前の情報提供を行ったり定期的な面会や家族を共にカンファレンスに参加して状況把握に努めています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人の方針として「医療行為が生じた場合や看取りはできない事」を契約時に家族に説明し了解を得ている。重度化した場合は医師や家族と話し合い、法人として対応が図れるよう協力体制を整えています。	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援については、「法人の方針で看取りはしない旨」を契約時に説明している。「看取り及び重度化に関する方針」を明文化し、利用開始時に本人と家族に説明し、同意・押印を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時の対応や事故発生時の対応を話しあって内容を確認しています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は、合同で2回実施しております。昼間想定火災訓練(総合訓練・自主訓練)で、非難・消火・通報訓練を行っています。夜間想定は、11月頃予定しています。	災害対策については、階下にある関連事業所と合同で昼夜想定で合計年2回の防災訓練を実施している。うち1回は運営推進会議と同日であったため会議参加者も総評部分に立ち会っている。地域との連携も行われている中、訓練の日程等の工夫により防災訓練への地域住民の参加を期待したい	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を人生の先輩として尊重し、一人ひとりの人格を尊重した支援に努めています。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保については、言葉づかいや声の調子等、利用者の人格尊重を考慮する機会が持てるよう、管理者が日頃から問いかけるようにしている。リビングから見えるトイレ及び浴室がカーテンのみで仕切られ、プライバシーの確保が難しい状況のため、アコーディオンカーテン等のしっかりとした仕切りの工夫が期待される。	利用者にとって最もプライベートな場所ともいえるトイレ及び浴室の出入り口の仕切りについては、利用者の尊厳とプライバシーの確保の観点から、仕切りの見直し及び改善が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をゆっくりと聞き取る時間をつくり、日常においても、本人がどうしたいのか、傾聴してから行うよう心がけ反映できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人の意向を確認し、希望にそって支援するように努めています。 ・入浴等、拒否がある場合には時間が立ってから再度声かけするなどしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴後その人らしい身だしなみができるように支援している。更衣の際は自分で選んで頂いています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を考え季節に合わせたメニュー作りを行い、野菜下処理・食器方付け・下膳等出来る事はして頂いています。	食事を楽しむことのできる支援については、すべての食事を事業所内で作っており、職員も同じ食堂テーブルで同じものを食べている。献立は利用者の嗜好を取り入れるようにし、年数回は刺身も提供している。共用スペースは、キッチンとリビングとの距離が近く、調理の音や匂い等、常に利用者の身近にあり、五感刺激に役立っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量等個人に合わせて提供し、形態も個人にあわせています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯洗浄・歯磨き等個人に合わせた口腔ケアを自分のできる事をして頂き、出来ない方は職員が介助を行っています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の表情、しぐさ、言葉使い、排泄チェック表等を見計らいトイレ誘導し排泄は、トイレを基本としています。	排泄の自立支援については、ウォシュレット使用の効果により便意があったり、便座に座るという動作で排泄につながる利用者もいる。職員は、日頃から利用者の表情やしぐさを観察し、トイレ等へ案内する等、自立支援に努めている。夜間も本人の様子を見ながら、トイレへの声かけや必要に応じポータブルトイレを使用する等、排泄の自立にむけた取組を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録表で排泄パターンを把握し、下剤は入居者の排便パターンに合わせて調整服用しています。又、医療連携を図りながらベッドからの離床で座位保持や腹筋運動を行い便秘予防に努めています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、入居者の希望や体調に合わせて入浴できるよう支援しています。入浴拒否をされる方はタイミングを見るなどして工夫して入浴ができるように対応しています。	入浴を楽しむことができる支援については、浴室を含め事業所内の環境整備は日曜日に行ない、月から土が入浴日となっている。入浴の介助は入浴時間帯に勤務している職員が行っている。入浴拒否ぎみの利用者については、本人の体調や気分を確認しながら支援している。利用者の好みの入浴剤やシャンプー等を家族が準備している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝等休みたい時には休んで頂いています。又、日中の活動を促し、生活のリズムにメリハリをつけるよう努めています。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的にいただいている薬情報をファイルにまとめ、又、新しく追加になった薬の確認を朝礼、夜間の申し送り時に行います。薬の飲んだ後の体調の変化も見逃さないようにしています。	服薬支援については、夜勤担当者が利用者ごとに薬を分け、投薬の際には担当者が再度チェックし、薬の取り違えがないようにしている。食後の口腔ケアの際に口の中に薬が残っていないか確認しているが、申し送りノートに「床に薬が落ちていた」という記録があり、再発防止への取り組みが望まれる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の出来る事や生活歴を念頭にいれながら、洗濯物たため・料理の下準備等、役割を与えています。余暇時間をレク、散歩したり等を取り入れて喜びや楽しみを分かち合っています。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が穏やかな日には、体調等を考慮しながら、戸外に出て散歩し近隣の家庭菜園の見学に行きます。月に1回程度、ドライブ等外出支援を行っています。	日常的な外出支援については、近隣住人の承諾を得て、個人宅の庭や菜園等を見に行く利用者や、天候や体調のいい時に見晴らしのいい屋上で外気浴をする利用者もいる。法人のリフト車を借りてドライブ等の支援に努めているが、事業所専用の車両がないため利用者の要求に速やかに対応できる外出支援が難しい状況である。	利用者のニーズに沿った、日常的な外出支援や個別支援が実施されるためにも、法人や階下の事業所との連携のもと、車使用がよりスムーズに行われる工夫が望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、必要時には家族の方と連絡をとりあって対応しています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年12月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけることはできなくても本人の希望があれば、職員が家族へ電話をかけて話ができる支援します。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々が居心地良く過ごせる様、相性などを観て配席の配慮をしています。通路の壁にはアートセラピー活動時の写真・作品を貼っています。共有の空間に限らず職員が清掃し清潔を保っている。	居心地のよい共用空間づくりについては、リビングのテレビで好きな踊りのDVDを就寝時近くまで視聴している利用者、そのそばで一緒に見ている利用者等がいる。CDからは文部省唱歌や童謡等が比較的小さな音量で流れ、静かな環境で支援している。華美な装飾のない、利用者の作品が掲示されているシンプルな共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とホールは同じ場所であり、全体的に視界に入りやすくなっており、テーブルも気の合う入居者どうし隣席して過ごしたり、食事時間をずらしてひとりでゆったり食事ができるよう配慮する事もあります。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドやタンス、二重カーテン等が備え付けられている。利用者は、馴染のイスやソファ、趣味の読書の本等を持ち込み、家族写真や事業所で取り組んだアートセラピーの作品等を飾り明るい部屋作りを支援しています。	居心地よく過ごせる居室の配慮については、開所当時からベッドは介護用ではなく、家庭的なフランスベッドを使用している利用者が約半数ほどいる。壁には家族等の写真や作品を飾ったり、本を居室内に置くことで安心する利用者、枕の下に財布を置く習慣のある利用者等、本人なりの空間となっている。テレビやラジオ等は、共用空間で楽しむことを推奨し、居室に置かないことにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動がしやすいように施設内はバリアフリーになっており、手すりを設置し、歩行や車いすでの移動が安全に行えるようにしています。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームたかまーみの家

作成日 : 平成 30 年 1 月 4 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	利用者にとってトイレは、最もプライバシーの確保が必要な場所なので、アコーディオンカーテン等のしっかりとした仕切りに工夫する。	リビングから見えるトイレのカーテンをアコーディオンカーテン等のしっかりとした仕切りに変更します。	6ヶ月
2	49	○日常的な外出支援	気兼ねなく、特に時間等を気にせずリフト車を使用し、ドライブ等の外出支援ができるようになる。	利用者のニーズに合わせた車の使用がよりスムーズに行われるよう法人や階下の事業所との連携を強化します。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。